

2023 年度

愛知大学外部評価報告書

2023 年 9 月

愛知大学外部評価委員会

目 次

1. 外部評価の概要
2. 総評
3. 外部評価委員による評価結果及び提言

参考 外部評価委員会規程

愛知大学 3つのポリシー

愛知大学 自己点検・評価報告書

愛知大学短期大学部 自己点検・評価報告書

1. 外部評価の概要

1. 愛知大学外部評価委員会の目的

愛知大学外部評価委員会（以下、「委員会」という。）は、「外部評価委員会規程（以下「規程」という。）」に基づき、愛知大学（愛知大学短期大学部を含む。以下「大学」という。）の事業全体の取組を客観的に検証及び評価し、大学の事業の一層の改善や充実に資する提言を行う。

2. 外部評価事項

2023 年度は、規程第 5 条第 1 項第 2 号に定める「本学の内部質保証に関する事項」に該当するものとして、「教育の質を保証する取組に関する客観的評価（「3 つのポリシー」を踏まえた大学の取り組みの適切性に係る評価）」を評価事項とする。

大学では、認証評価受審機関としている「公益財団法人大学基準協会（以下「大学基準協会」という。）」が定める機関別評価（大学評価及び短期大学認証評価）の評価基準に基づき、自己・点検評価活動を実施していることから、外部評価においても、大学基準協会が定める評価基準を踏まえ、外部有識者の視点から大学の事業及び取組を評価する。

■評価事項

審議及び評価事項	参考とする評価基準 (大学基準協会が定める)	該当の方針 (ポリシー等)
教育の質を保証する取組の前提となる 大学の理念・目的に関する客観的評価	第 1 章 [理念・目的]	建学の精神 教育研究上の目的
教育の質を保証する取組に関する客観的評価 (「3 つのポリシー」を踏まえた本学の 取り組みの適切性に係る評価)	第 4 章 [教育課程・学習成果]	学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)
		教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)
	第 5 章 [学生の受け入れ]	入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

■評価において使用した資料

- A) 愛知大学自己点検・評価報告書（2020～2022 年度）
 - <2020 年度：第 1 章、第 4 章及び第 5 章抜粋>
 - <2021、2022 年度：総括、学部・研究科の自己点検評価抜粋>
- B) 愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書（2022 年度）
 - <第 1 章、第 4 章及び第 5 章抜粋>
- C) 2024 年度大学案内（建学の精神、大学全体の概要紹介）
- D) 愛知大学学則、愛知大学短期大学部学則（教育研究上の目的）
- E) 3 つのポリシー（2023 年度以前、2024 年度以降）
- F) 愛知大学 3 つのポリシーを策定するための基本方針
- G) 愛知大学学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）
- H) 関連資料・冊子（履修要項、学生便覧）

3. 外部評価委員会開催日程等

【第1回】

日時 2023年7月3日（月）13:00～13:50

場所 愛知大学 車道校舎 第3会議室

【第2回】

日時 2023年9月7日（木）13:30～15:30

場所 愛知大学 車道校舎 多目的室

4. 外部評価委員会構成員

【外部評価委員】（敬称略）

委員長 井原 奉明（昭和女子大学 国際学部教授 副学長（教学））

委員 飯田 靖（愛知県教育委員会 教育長）

委員 藤本 和久（矢作建設工業株式会社 相談役）

委員 服部 晋吾（株式会社名豊 営業技術部 顧問）

【事務局】

企画部企画課

2. 総評

愛知大学は、「公益財団法人大学基準協会（以下「大学基準協会」という。）」を認証評価受審機関としており、大学基準協会が定める機関別評価の評価基準に基づき、自己点検・評価活動を実施している。この認証評価機関とは別に、愛知大学自己点検・内部質保証委員会の下に「愛知大学外部評価委員会」を2023年度から設置することとなり、今回、愛知大学として初めて外部評価を実施することとなった。

2023年度の外部評価は、「外部評価委員会規程（以下、「規程」という。）」に定める第1条（目的）「愛知大学（愛知大学短期大学部含む）の事業全体の取組を客観的に検証及び評価し、大学の事業の一層の改善や充実に資する提言を行う。」及び第5条（審議事項）第1項第2号「本学の内部質保証に関する事項」を踏まえ、審議及び評価事項を「教育の質を保証する取組に関する客観的評価（「3つのポリシー」を踏まえた大学の取り組みの適切性に関する評価）」とし、建学の精神、教育研究上の目的及び3つのポリシーを踏まえた教育活動の適切性について評価を行うこととした。対象年度は2022年度としたが、そこに至る経過と今後に向けた改善状況の点検も考慮し、2020及び2021年度の自己点検・評価報告書並びに2024年度以降の3つのポリシーについても評価対象とした。参考とする評価基準として、大学基準協会が定める評価基準のうち3項目（第1章、第4章及び第5章）の評価基準を参考にして評価を行った。

今回、評価にあたっては外部評価委員の全員が高等教育、とりわけ大学・短期大学教育に精通した分野の方々ではないことも考慮し、いわゆる高等教育業界以外の多様な視点で忌憚のない評価及び提言を行っていただくことを期待したところである。

評価結果であるが、全体的に概ね高い評価となった。より良い学生を育てるため、1) 建学の精神、教育研究上の目的および3つのポリシーの策定と公表・周知、不断の検証、2) 方針に沿った特色ある教育研究活動および厳正な募集活動の展開、3) 適切な自己点検評価の実施と課題面の改善に積極的に取り組んでおられる点、高く評価できる。一方、一部の委員からは、PDCAの着実かつ計画的・継続的な遂行や厳格な定員管理、学修成果の把握方法等の取組に対して厳しい意見が付されている。大学及び短期大学部におかれては、高い評価に甘んじることなく、長所及び特色の伸長に努めつつ、問題点で指摘された点を真摯に受け止め、迅速かつ適切に対応されることを期待したい。

また、大学への提言・意見についても各分野の視点で多数の提言・意見を得た。大学及び短期大学部の更なる発展に資する非常に示唆に富む多様な提言・意見であり、こちらに対応されることを望むものである。

最後に、作成にあたりご尽力を賜った関係者の皆様、とりわけ、ご多用のところ膨大な資料をお読みくださり、貴重なご指摘ご提言を賜った外部評価委員の皆様に、心より感謝を申し上げます。

愛知大学外部評価委員会
委員長 井原 奉明

3. 外部評価委員による評価結果及び提言

評価者 A

第 1 章 理念・目的

評価

【愛知大学自己点検・評価報告書】

大学全体の理念・目的を適切に設定し、各学科・専攻は、大学の理念・目的に沿って教育研究上の目的を適切に設定している。理念・目的および教育研究上の目的は、規程の上でも適正に定められており、HP にて公開することにより、学内外へ周知・公表できている。学部・研究科レベルの教育目的は学則にないが、HP 上にその内容は示されている。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

短大の理念・目的を適切に設定し、それに沿って学科の教育研究上の目的も適切に設定している。建学の精神は学長の講話において語られており、理念・目的は、HP や受験生への説明会、新入生オリエンテーションにおいても周知されている。

長所・特色

【愛知大学自己点検・評価報告書】

各学科・専攻の教育研究上の目的は、大学全体の理念・目的に基づいていることが明確である。また、現代の教育上および社会からのニーズにこたえ得る人材養成の目的となっている。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

学科の教育研究上の目的は、短大の理念・目的に基づいていることが明確である。また、現代の教育上および社会からのニーズにこたえ得る人材養成の目的となっている。

問題点

【愛知大学自己点検・評価報告書】

大学（法人）として設定している「第 5 次基本構想」を踏まえ、それをどのように実現するかを各学部・各研究科が落とし込む形で計画や諸施策を立て、その実現状況に基づいて基準 1 点検評価項目[3]を評価することが求められる。各部署の自己点検からその点は伺えなかったもので改善を図りたい。また、一部の専攻の自己点検において、教育研究上の目的と、いわゆる 3 ポリシーとの混同がみられる。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

建学の精神、理念・目的の学生への周知はさらに徹底を図ることが求められる。

第 4 章 教育課程・学習成果

評価

【愛知大学自己点検・評価報告書】

各学科・専攻という教育プログラムとともに、学位授与の方針、教育課程の編成方針を適切

に定め、方針に沿った教育課程を編成している。学習の活性化を図り、成績評価や単位認定も適切に行っている。教育に関わる PDCA を部署ごとに回し、改善に努めている。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

学科は、学位授与の方針、教育課程の編成方針を適切に定め、方針に沿った教育課程を編成している。学習の活性化を図り、成績評価や単位認定も適切に行っている。教育に関わる PDCA を部署ごとに回し、改善に努めている。

長所・特色

【愛知大学自己点検・評価報告書】

アクティブラーニングやプロジェクト学習を導入し、効果的な教育措置が講じられている。学科により、成績評価の分布を用いて成績評価の厳格化につなげているところは優れている。自己点検評価を客観的データに基づいて行っている。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

教育課程を 3 つのフィールド、5 つのエリアに分け、科目群の到達目標を明確化している。LMS を効果的に活用し、授業外学習時間の増加を図っている。

問題点

【愛知大学自己点検・評価報告書】

成績評価の厳格化に向け、授業がシラバス通りに行われたか、成績評価の分布はどうか等を把握できるシステムがあることが望ましい。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

フィールドとエリアを組み合わせたカリキュラムツリー等、視覚化されているとわかりやすい。

2 年次の履修登録単位数の上限が 48 単位であるが、ギリギリの多さである。

第 5 章 学生の受け入れ

評価

【愛知大学自己点検・評価報告書】

各学科・専攻という教育プログラムとともに、学生の受け入れ方針を適切に定め、方針に沿った学生募集、入学者選抜制度、入学者選抜運営体制を整備し、入学者選抜を公正に実施している。定員管理について、適正に管理するよう努めている。学生の受け入れに関わる PDCA を部署ごとに回し、改善に努めている。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

学科は、学生の受け入れ方針を適切に定め、方針に沿った学生募集、入学者選抜制度、入学者選抜運営体制を整備し、入学者選抜を公正に実施している。定員管理について、適正に管理するよう努めている。学生の受け入れに関わる PDCA を部署ごとに回し、改善に努めている。

長所・特色

【愛知大学自己点検・評価報告書】

入学者選抜を公正に実施するため、受験生に必要な情報を公表・提供し、判定基準と結果の透明性をもって入学者を選抜している。また、同様の目的に沿い、結果を公表している。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

入学者選抜を公正に実施するため、受験生に必要な情報を公表・提供し、判定基準と結果の透明性をもって入学者を選抜している。また、同様の目的に沿い、結果を公表している。

問題点

【愛知大学自己点検・評価報告書】

一部の専攻において定員充足率が低い。また、学部のだ員超過率の目標値を 1.15 とすることが点検評価（2022 年度地域政策学部）において書かれているが、1.0 を目指すことが望ましい。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

ここ 5 年間の平均入学定員超過率はよいが、直近 2 年間の数字は低い。改善を図られたい。

全体

大学への提言・意見

理念・目的に沿った教育研究活動を安定的・継続的に行っており、社会からの付託に応えることができおり、高く評価できる。中期計画としては第 5 次基本構想といったビジョンを掲げ、今後の期待が高まる。

学修成果の可視化、成績評価の厳格化、入学者選抜における適正な定員管理については、一層の改善に取り組んでいただきたい。

評価者B

第1章 理念・目的

評価

- 愛知大学（短期大学部を含む。以下同様）における「第1章 理念・目的」に対する取組については、「②実施できている」と評価する。
- 建学の精神である「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」に基づいて、国際コミュニケーション学部や地域政策学部等を設置し、理念に合致した人材を養成するための充実した教育研究活動に取り組まれている。
- 「愛知大学」と聞けば、東亜同文書院から脈々と続く中国・アジア重視の国際人の養成等、他の大学にない魅力や特長がイメージされる。今後も、貴学の魅力を一層高めて、受験生や地域の関係者から注目される大学であることを望む。

長所・特色

- 大学の理念・目的については、公式 Web ページや大学案内への掲載にとどまらず、貴学内の諸行事においても学長が繰り返し話題にするなど、効果的な手段の活用により広く公表されている。
- 大学の理念・目的を受けて、学部・研究科の目的が適切に設定されている。教職員や学生、地域の関係者の共通理解のもとに、教育研究活動が進められている点が評価できる。例えば、国際コミュニケーション学部における、ネイティブ教員等による英語コミュニケーション能力の育成、地域政策学部における、地域を見つめ貢献できる人材の育成等、多くの学部・研究科において建学の精神を具体化し、学生を育てている。

問題点

- 将来を見据えた中・長期の計画等の策定について、対応中としている学部・研究科が多いのは、新型コロナウイルスの流行による構想の見直し等によるものと理解できるが、2016年度に示した10年後（2025年度）の大学将来像実現の期限が迫っている。早急に全ての学部・研究科において対応し、中・長期計画に基づいた具体的な施策の展開を期待したい。
- 自己点検・評価において、多くの学部・研究科が長所・特色を「特になし」と記しているが、長所や特色を積極的に打ち出し、貴学の魅力がより多くの人に伝わるようにしていただきたい。

第4章 教育課程・学習成果

評価

- 愛知大学における「第4章 教育課程・学習成果」に対する取組については、「②実施できている」と評価する。
- 貴学の3つのポリシーのうち、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、特に一体性・整合性を強く保つように策定されており、大学の基本方針を受け、学部・研究科において学生が身に付けた資質・能力を適切に評価される仕組みとなっている。
- 学位授与方針、教育課程の編成・実施方針ともに必要に応じて修正し、Web ページに掲載す

るなど、学内外に適切に周知、公表している。今後、方針に基づいた教育研究活動の成果を測るため、学生の授業への満足度や卒業生の進路状況等のデータを集積・分析し、常に時代に適合したポリシーの策定を期待する。

長所・特色

- 学部・研究科において学位授与方針が定められ、その実現に向けて教育課程の編成・実施方針に基づいた授業科目が開設されている。また、認証評価等により見直しを図るなど、ポリシーの質を向上させるために、学部単位での効果的な PDCA サイクルが構築されている。
- 単位認定や学位授与については、教授会での審議や主査・副査による審査等、複数の教員が関わることによって、客観性、厳格性、公正・公平性が保障されている。
- 教育課程連携協議会やカリキュラム検討委員会、自己点検評価委員会など、点検・評価に必要な会議を設置し、教育課程の改善等に係る取組が適切に行われている。

問題点

- 「大学案内 2024」の巻末に、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が示されているが、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針については記載されていない。全てを記載することで、貴学への入学を希望する高校生が、貴学の教育研究活動への理解をより深められるものとする。
- コロナ禍による長期休業や Web 等による遠隔授業の実施は、貴学の教育課程に大きな影響を及ぼしたものと思われる。これらの経験を今後に生かせるよう、記録として確実に残しておくことが望ましい。
- 愛知県の特徴でもある外国にルーツをもつ生徒等が貴学に興味をもつためにも、留学生の教育課程やその学修成果について示されるとよい。

第5章 学生の受け入れ

評価

- 愛知大学における「第5章 学生の受け入れ」に対する取組については、「②実施できている」と評価する。
- 入学者受入方針については、「求める学生像」「入学前までに修得すべき能力」が具体的に示され、貴学が受け入れたい学生像が明確にされている。また、入学者の選抜方法が記載されており、入学を希望する者や関係者にとって分かりやすいものとなっている。これらは、学生募集要項や公式 Web ページに掲載し、受け入れ方針の適切な設定及び公表がなされている。
- 選抜制度については、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜に加え、留学生入試等を実施し、貴学が求める学生像に合った人材を広く求めている。今後は、特別な支援を必要とする生徒や外国にルーツをもつ生徒が貴学で学べるような、より幅広い選抜制度の確立について期待したい。

長所・特色

- 全ての学部・研究科で、入学者受入方針を踏まえた学生募集方法や入学者選抜制度が設定されている。また、現代中国学部のグローバル人材特別入試など、それぞれの学部が求める

人材を幅広く受け入れている取組が評価できる。

- 入学者受入方針については、全ての学部・研究科において、適切に公表されている。貴学の学部生の約 70%を愛知県の出身者が占めることから、今後も県内の高校生を対象とした企画の充実を図り、入学者受入方針のさらなる浸透を目指していただきたい。
- 入学者の選抜については、各種委員会等の体制を整備し、公正な入学者選抜及び在籍学生数の管理を適切に実施している。

問題点

- 高校生が参加できるオープンキャンパス等の実施時期や対象生徒を検討し、貴学の学生受入方針をより早い時期に生徒が知る機会を増やしていくとよい。
- 入学者受入方針の情報の得やすさを高校生の立場から考えると、入学説明会等の機会を生かした大学側からの積極的なアナウンスが効果的である。
- 今後のさらなる少子化対策に向けて、貴学が求める学生像の追究と在籍学生数の管理とのバランスをどのように考えるのか。その基準を明確にしながら募集定員を調整する必要がある。

全体

大学への提言・意見

- 昨年 11 月に締結した包括協定により、探究的な学びにおける連携、大学生と高校生の交流の活性化、高大接続の充実などの取組を通して、貴学の幅広く高度な教育・研究力を高校生に伝えたい。貴学と県立高等学校との積極的な連携に期待している。
- 貴学で学ぶ約 9,500 人の学生のうち、55%を超える約 5,300 人が愛知県立高等学校の出身者である（2022.10.01 愛知大学名古屋教務課作成データより）。今後も、県立高校生が貴学で 4 年間学び、地域に貢献できる人材に育っていくことを期待している。特に、愛知県の教員として活躍する人材の育成は、貴学に大いに期待することである。
- 3 つのポリシーの改善に適切に取り組むことにより、学生の受入れから卒業まで一貫した研究教育活動を実施し、貴学の理念・目的に合致した優れた人材の養成に努力されることを期待している。
- チャット GPT など生成 AI の登場は、入試や単位認定を始め大学の研究教育活動にも様々な影響を及ぼすことと予想される。有効な活用方法の検討やポリシーへの反映等に早急に取り組むことで、貴学が地域の先進モデルとなることを期待したい。

評価者C

第1章 理念・目的

評価

評価 ①特に優れている

愛知大学全学部共通の理念・目的については学則第1条（目的）にて適切に設定されている。また各学部、各学科における教育研究上の目的についても学則第2条の2において適切に設定されていることが確認できる。教職員、学生への周知および社会への公表に関しては、大学ホームページ上にて広く公表されていることが確認できる。目的などを実現していくための中長期計画、施策の設定については、2021年4月に「第5次基本構想」が策定されている。

愛知大学短期大学部の理念・目的については愛知大学短期大学部学則第1条（目的）にて適切に設定されている。またライフデザイン総合学科における教育研究上の目的についても学則第2条の2において適切に設定されていることが確認できる。教職員、学生への周知および社会への公表に関しては、愛知大学ホームページ上にて広く公表されており「学生便覧」においても学生に対して周知が行われている。目的などを実現していくための中長期計画、施策の設定については、愛知大学短期大学部も愛知大学同様に2021年4月に「第5次基本構想」が策定されている。

長所・特色

学部ごとの教育研究上の目的は、愛知大学の建学の精神、理念・目的の方向性を学部の特色を織り交ぜつつ方向性を具体的に示すものとなっている。また、この目的の実現のため「第5次基本構想」が策定されており、本構想が事業計画に反映され、都度見直しが図られている。さらに教育研究上の目的を含めた情報公開については、愛知大学、愛知大学短期大学部ともにホームページ上で分かりやすく公開されており、広く社会に公表されている。

問題点

愛知大学の「建学の精神」については、ホームページや大学案内、学生便覧、各学部、各学科の取組により積極的に周知が図られている。しかしながら愛知大学、愛知大学短期大学部ともに「建学の精神」について理解を深めることができたかを問う設問に対しては、肯定的な回答が回答者の6割にとどまっており、またアンケート自体に対する回答率も低いとの結果がでている。「建学の精神」の周知については問題ないと思われるが、内容の理解に対する機会を増やしていく必要があると考えられる。

第4章 教育課程・学習成果

評価

評価 ①特に優れている

愛知大学、愛知大学短期大学部では「3つのポリシーを策定するための基本方針」に従い、各学部各学科及び研究科の専攻ごとに定めた教育研究上の目的の実現に向けて、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を策定しており、大学ホームページや履修要項などにおいて記載、公表されていることが確認できる。また各学

科、専攻においてはカリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を体系的に編成しており、適宜授業科目を見直し新たな科目を配置するなど教育活動を進めていることが確認できる。単位認定、学位授与に関しては、厳正な成績評価のもと適切に行われていることが確認できる。ディプロマ・ポリシーに明示されている学習成果に関しては、学習成果アンケートを実施し適切に把握及び評価がなされている。学習成果アンケートに関しては各教授会にも報告されており、回答結果を集計し前年度から改善しているもの、低下しているものを確認した上でカリキュラムの改善に活用されている。

長所・特色

新型コロナウイルス感染症に対する授業の実施については、「遠隔授業ワーキンググループ」を組織し、ICT技術に明るい職員を機動的に配置して非常勤教員も含め教員・学生へのサポートを行うことや、現地でのプログラムを開催できないことへの対応を検討する委員会を立ち上げ検討を実施している。学生の学びを止めてはならないという使命をもって愛知大学全体で取り組んでおり、活動について高く評価することができる。また学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うため各学部においてアクティブラーニングを導入、実施していることも長所といえる。

問題点

アクティブラーニングは各学部にて導入されており有効に活用されていると見受けられるが一方で教員によっては導入できていない場合もあり、より一層の導入推進が課題としてあげられる。また愛知大学短期大学部においては非常勤教員が多く（全164クラス中85クラス）、時間割編成などに無理が生じていること、学習単位であるユニットや、語学科目の週2コマ履修も十分には実現できていないとの課題もあり改善が求められる。

第5章 学生の受け入れ

評価

評価 ②実施できている

愛知大学、愛知大学短期大学部では学部の学科及び研究科の専攻ごとに定めた「教育研究上の目的」の実現に向けて、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）を策定し、愛知大学ホームページや学生募集要項にて公表されていることを確認できる。学生の受け入れについては、上記のアドミSSION・ポリシーに基づき、公正性、厳格性、透明性を担保した上で実施されていることが確認できる。入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理に関して、愛知大学学士課程では教授会にて募集定員内訳を検討し、一般入試・推薦入学者の比率を調整するなどの取組によって概ね適正に管理されているといえる。また愛知大学短期大学部では平均入学定員超過率が1.03となっており現状では適正に管理されていると確認できる。また学生の受け入れの適切性については、毎年度入試が終了した時点で「入試総括」「入学試験集計資料」が取りまとめられており、入試に関する情報を全学に周知し情報を共有する体制を確立した上で、次年度以降の入試制度改革の検討材料として活用されていることが評価できる。

長所・特色

入学者選抜に関わる組織が、学長のリーダーシップの下、教育職員、事務職員の協働により運営されているため、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に定める学生像の具現化、高等学校から高等教育へとつながる高大接続を意識した入試制度改革につき、学内の意思決定が迅速に行われていることは高く評価できる。また志願者を公正に審査するため総合型選抜において資格等を点数化したり、英語学科において英語 4 技能を用いた特別入試を取り入れるなどの取組を実施していることは長所であるといえる。

問題点

修士課程、博士後期課程では中国研究科を除き収容定員に対して在籍学生が大きく下回っている現状が見受けられる。また愛知大学短期大学部においてもここ数年での入学者数の減少は顕著となっている。「第 5 次基本構想」においても少子化時代への対応が記載されているが、大学院研究科組織の改革再編、学生定員や教職員数、授業負担やその配分についての柔軟な見直し、大学ブランド力の強化など、多角的な対策を行い改善していく必要がある。

全体

大学への提言・意見

経済界では SDGs などの世界的な目標の共有化が進んだことによって、過去には提供の必要がなかった情報を多様なステークホルダーに提供し且つ各種指標が改善していることを訴求していくことが企業発展のために重要となっている。このことは教育界においても同様と考えられる。愛知大学では「教育研究上の目的」を達成するため様々な取り組みが実施され、成果をあげていることが確認できるが、その取り組みや成果について十分に訴求できているとは言い難い。「第 5 次基本構想」の事業項目にも挙げられているが、取り組みや成果をより可視化し、統一したイメージを継続して発信していくブランディング戦略の実行こそが、この少子化時代に愛知大学が発展し続けていくために必須であると考ええる。

評価者D

第1章 理念・目的

評価

【愛知大学自己点検・評価報告書】

- ・評価：「不十分である」 (2022年度進捗/明確な理由があるが重要項目)
- ・理由：大学の理念・目的と各学部・研究科の階層的な連関もとられ、学則等規則に明示され関係するステークホルダー・社会に公表されている。重点項目①・②は「優れている」。重点項目③は、2021年自己点検・評価において少し改善されているが、新カリキュラム2025年により「対応中8件」となり、2022年時点では不十分として評価。全体でも「不十分」として評価。時代の変化も早く、カリキュラムも柔軟な対応が望まれる。
➡現在の「第5次基本構想」は3年目になり、大学全体の中長期目標実現に合わせて学部・研究科の中長期的な展開施策計画が必要。(企業の事業部計画にあたる。)

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

- ・評価：「実施できている」 *③について課題
- ・理由：所属する愛知大学の理念を受け、教育の目的、学則への規定、公表は適切に対応、「短大将来計画」の策定はされており、入学者減少に対して具体化と実施が課題

長所・特色

【愛知大学自己点検・評価報告書】

- ・特色：「建学の精神」を継承し、「地域・国際貢献」に寄与し3年後創立80周年を迎える。
 - ➡「愛・三・岐・静地域」を中心とした卒業生の輩出(15万人以上)と産学官連携による「地方貢献」(行政分野への輩出が多く三遠南信地域との連携)
 - ➡アジア(中国/台湾)を起点としたグローバル化人材育成と国際交流
 - ➡「建学の精神」「大学の歴史」を授業科目、基礎演習等に反映し浸透を図っている。
- ・管理：中期計画をもとに「単年度事業計画・報告」「学部・研究科の自己点検・評価」「課室別目標管理」により効率的に自己点検・評価を実施している。(実効性が課題、PDCAの着実な実行が弱い)

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

- ・特色：愛知県三河・静岡県地域を主に多岐にわたる業界・業種(地元企業、行政)へ卒業生を輩出し「地域社会へ貢献」している。(設立63年、2万1000人の卒業生)
- ・長所：4年制大学との併設校であり、編入・単位互換などのメリットを提供(経営資源の有効活用で一定的な効果はあがっている)

問題点

【愛知大学自己点検・評価報告書】

- ・課題：「第6次基本構想」の策定検討、それに合わせて「各学部・研究科」の中長期展開計画を策定することになる？(第5次は、2025年度で終了する。新カリキュラムスタート)
- ・重点：現状入学定員、収容定員の小手先の対応ではなく、「大学院教育」の在り方を、抜本的

に見直し将来計画を策定する。

*何が問題なのか？

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

- ・課題：3期連続「入学定員充足率」の未達成

➡短期的には、「短大将来計画」の具体化（「4年制大学併設等の環境を活かした教育」）

*2023年以降推移を要監視/実効性を検証

第4章 教育課程・学習成果

評価

【愛知大学自己点検・評価報告書】

- ・評価：「不十分である」（対応中の進捗・実施基準が良く見えない/実効性を問う）

- ・理由：進捗状況は、2021年自己点検・評価から2022年では、対応中が6件から5件、予定が1件で横ばい。現状不十分であると判断したが、今後進捗・実施基準を明確にし迅速な対応が望まれる。（2021年認証評価でもC評価で低く、質的改善が必要）

：2021年外部認証評価是正・改善・努力課題に対応して、2024年以降学生の「3つのポリシー」が改訂され、一部実施されている。これをもとに全学的に展開することを期待したい。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

- ・評価：「特に優れている」

- ・理由：学位授与方針に掲げる学修目標を実現するために、適切に教育課程の編成・実施方針が示され、学生のニーズに対応するためのカリキュラムも体系化され、教育方法も多くの工夫がなされ展開されている。学修成果アンケート、授業評価アンケート、学生アンケートなど学修成果の評価から、カリキュラム、授業方法など改善が見られた。（授与方針に示された学修目標を実現するために、教育課程の編成・実施方針のPDCAがまわされていた。）

長所・特色

【愛知大学自己点検・評価報告書】

- ・長所：「3つのポリシー改訂」により、学位授与方針/DPと教育課程の編成・実施方針/CP（目標）（教育内容・教育方法、学修成果評価）との関連、学位授与方針と入学者受入方針/AD（求める学生像、入学前に修得すべき能力、選抜方法）との関係がわかり易く統一され内容的にも改善された。

- ・特色：現代中国学部による現地主義「現地プログラム」「現地研究調査」「現地インターシップ」による教育（現在は、コロナで中断されているが、特色のある教育方法）

：グローバル化対応の人材育成「さくら21プロジェクト（日本理解・発信）」は、新しい取り組みで期待したい。

➡「特色のある」「新しい」教育方法・内容が必要

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

- ・長所：4年制大学併設の特長を活かし、編入学制度、単位互換/特別聴講など教育課程に取り

入れている。(効果の検証が必要)

: 学生の社会的および職業的自立を図るための多彩な「キャリア教育」の実施や学修効果を上げるための、授業方法の工夫を実施 (PBL・フィールドワーク・オンライン学習管理システム「ムードル」、ハイブリッド教育)

: 学修成果アンケートの分析・評価からカリキュラムの改善、授業評価アンケート (設問内容改善) から教育課程の内容、方法の検証や改善などに活用されている。

問題点

【愛知大学自己点検・評価報告書】

・学修成果：学修成果方針により各層で「学修成果の評価方法」が設定されており、現状各学部・研究科で把握されているが、「可視化/見える化」されていない。

: 学修成果をもとに評価・検証して、教育課程の編成・実施などの改善に有効に活用されていない。(PDCA が適切にまわされていない)

: 現在「学修成果アンケート」「授業評価アンケート」が主力であるが設問内容などの改善が必要。また、学修ポートフォリオ、アセスメントテスト、ルーブリックなどの他の評価方法のツール開発など全学的な検証が必要。

*IR のシステム化が活用には、必要な基盤となる。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

・課題：教育課程の編成・実施方針の「基本的な考え方」が課題であるが対応している。

第5章 学生の受け入れ

評価

【愛知大学自己点検・評価報告書】

・評価：「**不十分である**」 重点項目③④不十分/全体は、前年改善がある。

・理由：2021 年自己点検より、対応中・予定 9 件から 5 件へ改善であるが、不十分である。

特に重点項目③④は、入学定員充足率、収容定員充足率、定員超過率は、教育の質維持、経営に直結する課題である。

: 一部大学院では、入学者ゼロ、収容員充足割れが発生、入学者の定員、収容定員を見直しているが、根本的な解決にはいたらない。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

・評価：「**実施できている**」

・理由：学位授与方針で定めた人材を育成するために、入学者受入方針/AD を策定し対応している。今回、新たな愛知大学「3 つのポリシー」の改訂 (2024 年以降) では、全学的に、入学者方針に従い、「求める学生像」「入学前まで修得すべき能力」「選抜方法」は改善されている。(多岐にわたる選抜方法を採用)

: 入学定員 2 期減少、収容定員充足率の低下、「短大将来計画」を策定し検討されているが 2023 年も入学者の減少 (次年度には、将来計画が有効であるか検証が必要)

長所・特色

【愛知大学自己点検・評価報告書】

- ・長所：学位授与方針で定めた人材を育成するために、入学者受入方針/AD を策定し対応している。今回、新たな愛知大学「3つのポリシー」の改訂（2024年以降）では、全学的に、入学者受入方針に従い、「求める学生像」「入学前まで修得すべき能力」「選抜方法」は改善されている。（DPとADの連関）

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

- ・長所：一般選抜、学校推薦選抜、キャリアデザイン特別入試、社会人入試、外国人留学生入試など多岐にわたる選抜方法の実施、本学との連携、短大独自の入試広報活動

問題点

【愛知大学自己点検・評価報告書】

- ・全体：入試選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜による受け入れ割合の基準は
：定員超過率、入学定員充足率、収容定員充足率の管理（経営課題、ST比率などの教育の質）による短期・長期的な大学（マクロ）・部（メソ）展開計画が必要
- ・大学院：入学者ゼロ、収容定員充足率の低下など大学院教育の将来計画の検討が必要。

【愛知大学短期大学部自己点検・評価報告書】

- ・課題：3年連続入学定員充足率（入学者の減少）、現在収容定員充足率が低下しており、「短大将来計画」の具体化と実効性の検証
*2023年入学者減少
➡同時に、入学者の質の低下が懸念、どのように対応していくのか？

全体

大学への提言・意見

■認証評価第4期は、学修成果を基軸に確実の「内部質保証重視」と可視化された学修成果により点検・評価され「実効性」が問われる。「大学全体の達成度や実効性が問われる」「大学全体がどのように向上したのか」

- ・「自己点検・内部質評価」体制の構築による質の保証から、学修成果を上げる実効性の追求（出口の学生の質を上げる）
*学修成果の可視化追求（可視化/見える化/データ化/共有/評価・改善）

➡大学全体の複合的評価/社会的評価/学生評価の可視化 *各ランキング、就職先検討

- ・基盤となるIRシステム化/学内DX化推進（教職員のかたの業務軽減）、FD・SDの向上による「学生支援」のさらなる強化（学生・父兄から選ばれる大学）
- ・中期計画、単年度計画、学部・研究科の自己点検、課室目標管理の重点指標の連関、見える化による実施（本学と同時に学部単位の中長期計画策定と展開）

➡施策の「KGI・KPI」による見える化及び学修成果の可視化/見える化によるPDCAの強化

➡「特色/独自性のある大学づくり強化」（弱くなってきている） *地方貢献/産学連携

➡経営と教学のあらたな推進体制の検討（財務基盤の構築/2040年18歳人口90万割れ）

■新たな時代の教育の検討（経営資源と戦略的優先順位/他大学にない教育内容・方法）

- ・ ICT・生成 AI の普及と対応/産業構造の変化、労働市場の変化（仕事が変わる）

- ➡ 予定されている「データサイエンス」「AI 教育」は、すべての学部に影響し、新カリキュラム内容の検証が必要(生成 AI の影響が速く大きい)

- ・ ハイブリッド教育の開発（コロナ禍対応を強みを活かす）/自身の経験から

- ➡ 社会人教育（リカレント教育、リスキリング）への対応、大学院教育の再編（社会人）

- ・ 文理融合教育(STEAM 教育、リベラルアーツ教育)など基盤となる教育の強化

- ➡ 今後専門分野を専攻するうえで基礎となり、「俯瞰する力」「広い視野」を持つ人材育成するため、文系しかない愛知大学は、「共通科目の強化」をする必要がある。

- *文理融合

- ・ 日本の企業の 97%は中小企業（中部/地方はさらに多い）、アントレプレナーシップを持つ人材の育成（自身の経験から/卒業生に社長層がいない）

- ➡ 起業家教育（行政内起業家、企業内起業家、中小企業再生、スタートアップ）

- ・ 企業・行政が必要な人材・資質・能力は何か？学力の 3 要素は重要であるが。

- ➡ マーケティングが必要（中部経済連合/同友会の要望） *DX、GX、SDGs 対応

■短大は、4 年制大学併設のメリットを活かした展開は、短期的な施策である。長期的には、「女子の 4 年大学の進学率向上」「女性の社会進出増加」「18 歳人口の減少が加速」などの社会的なニーズの変化により 10 年後を見据えた改革が必要。 *ジェンダー平等への対応

- ➡ 共愛学園前橋国際短期大学（4 年制大学との併設）事例 *地域重視

- ➡ 2040 年 18 歳人口 77 万になる。（経営面の検討）

参考

●外部評価委員会規程

2023 年 4 月 1 日
制定

（目的）

第 1 条 この規程は、愛知大学（愛知大学短期大学部を含む。以下「本学」という。）の事業全体の取組を客観的に検証及び評価し、事業の改善に資するため、愛知大学自己点検・内部質保証委員会規程第 12 条第 2 項に基づき設置する外部評価委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定める。

（組織）

第 2 条 委員会は、以下の各号に該当する者のうちから、第 5 条に定める審議事項を踏まえて適切な者を自己点検・内部質保証委員会が推薦し、学長が委嘱する。

- （1） 他大学の教職員
- （2） 行政等関係者
- （3） 経済界・文化界等関係者
- （4） 前各号に定める者のほか、法人運営及び大学運営に関して広い見識を有する者

2 前項各号に掲げる者を、外部評価委員（以下「委員」という。）と称する。

3 委員は、3 名以上 6 名以内とする。

4 委員会は、第 1 項各号のうち、第 2 号及び第 3 号の者を必ず含めるものとする。

5 第 1 項各号に定める者には、本法人又は本学から発令されている者及び認証評価機関の者を含めない。

（任期）

第 3 条 委員の任期は 2 年とし、4 月 1 日から起算する。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 4 条 委員会に、委員長 1 名を置く。

2 委員長は、委員の中から学長が指名する。

3 委員長に事故あるときは、学長が指名した委員がその職務を代行する。

（審議事項）

第 5 条 委員会は、自己点検・内部質保証委員会から提示された次に掲げる事項に対して審議及び評価を行う。

- （1） 本学の自己点検・評価活動に関する事項
- （2） 本学の内部質保証に関する事項
- （3） その他、自己点検・内部質保証委員会が必要と認める事項

2 委員会は、前項に基づいて行われた評価の結果及び改善を求める提案事項を報告書にまとめ、自己点検・内部質保証委員会に提出する。

3 前 2 項の審議及び評価の実施に関して必要な事項は、別に定める。

（会議）

第 6 条 委員会は、学長の要請に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、前条第 1 項第 2 号に関する事項については毎年度、同項第 1 号及び第 3 号に関する事項については学長の要請に応じて開催する。

3 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

4 委員会は、必要に応じて関係部署に資料の提出を求めることができる。

5 委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

(報酬)

第7条 委員への報酬は、別に定める。

(旅費)

第8条 委員が、その職責に基づく本学の用務のために来学する場合には、旅費規程を準用して自宅からの旅費を支給する。

2 前項の旅費規程の準用にあたっては、旅費規程第9条第1項別表第1のDとし、日当については、当該委員の自宅が所在する都道府県以外の場所に赴く場合に支給する。

(幹事)

第9条 委員会の幹事には、企画課をあてる。

2 幹事は、学長の指揮をうけて会務を処理する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、自己点検・内部質保証委員会、常任理事会、学内理事会及び大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則 (制定)

この規程は、2023年4月1日から施行する。

●愛知大学 3つのポリシー

愛知大学公式 HP 教育方針と取組み

<https://www.aichi-u.ac.jp/profile/concept>

●愛知大学 自己点検・評価報告書

愛知大学公式 HP 大学の財務及び自己点検・評価活動状況

<https://www.aichi-u.ac.jp/profile/activity>

●愛知大学短期大学部 自己点検・評価報告書

愛知大学公式 HP 大学の財務及び自己点検・評価活動状況

<https://www.aichi-u.ac.jp/profile/activity>

2023 年度 愛知大学外部評価報告書

編集・発行：愛知大学外部評価委員会

問合せ先：愛知大学企画部企画課

〒461-8641

愛知県名古屋市東区筒井 2 丁目 10-31

TEL : 052-937-8163 FAX : 052-937-8215